

へ、上杉謙信の鎧大将青板大膳の首を得、後所々の合戦に大功を立てた。その子内田三郎兵衛は後に山崎闇齋に仕へて百五十石を受けた。

カシマチノタブ 鹿島路の楯 鹿島郡鹿島路に在つて、地上約一米の所で最も太く、丸米五を測り、そこから巨大なる六幹に分かれ、枝葉天を蔽ひ、恰も森林の如き觀を呈してゐる。地方人之を森の木と稱し、全國的大地である。元來この所は白山神社のあつた地であるが、明治四十二年それを同郡落の能登神社に合併した址である。

カシマチロクザエモン 鹿島路六左衛門長連龍の臣。慶長五年八月淺井駿に於いて、丹羽氏の土坂井彌五左衛門の爲に討たれた。子孫はない。

カシマヅ 香島津 萬葉集の香島津の位置を論じたものに四説がある。第一は鹿島郡所口附近とするもので、その地が國府に近いに基づく。第二に同郡小島だとするもので、小島と香島と國音の似たるに因る。この二説は、大伴家持の香島津より熊來を射して行くといふを、南から北に向かうたと解するのである。第三は國至郡穴水附近の鹿島とするもので、地名の同訓なるに根據を置く。第四は同郡中とするもので、大日本史先づ之を唱へ、日本地理志料の踏襲した所で、常陸國鹿島津を一中宮とも稱するから、この中に鎮座する式内加夫都比古神社の祭神も鹿島神ならざるべからずとして、中港こそ香島津であるとの結論を生んだものである。この二説は家持が香島津から南に向かうて熊來村に航したとするものである。しかしこの南航説を成立

せしめるには多大の強辯を要するから、矢張り北航説に隨ふべきであり、第一説も第二説も共に可とする。何故ならば港津の名稱の如きは、甚だしく狭い區域を限定するものでなく、七尾も小島も直に隣接した海岸であるからである。それを香島津といふのは、加島郷に在るからである。

カシマネ 鹿島嶺 萬葉集十六『所聞多福乃机之島能小螺乎云々』所聞多福は今かしまねと訓み、鹿島嶺の義と解するのが定説となつてゐる。又井上通泰の萬葉集新考には、『カシマ福の机の島といへる福の言いぶかし。或は乃彌を誤り、又轉倒したるにあらざるか。カシマノミは香島の海なり』とある。面白い説であるが、直に貸することもできぬ。

カシマノカヤ 鹿島の榎 國至郡鹿島に住む佐藤孫左衛門は、奥二郡に於ける幕府領の大庄屋で、門地の高いと共に家運も繁榮し、衆民羨望の標的となつてゐた。『鶴島乙崎・根本・志の浦・會福・鹿島の孫左衛門』といふ俗語があつたのは、佐藤家の地位がこの地方に冠たるものであることを諷うたのだらう。その佐藤家の邸地に、今も一株の年古りたる榎が残つてゐる。地上一米で周囲四米一を測り、廣く鹿島の榎を以て知られて居る。

カシマノシヤソウ 鹿島の社叢 江沼郡大聖寺川の河口なる鹿島は、もと北潟中の一島であつたが、今は陸地と相續してゐる。その地にある鹿島社の社叢は、シヒ・タブノキ・ツバキ等を主木とするもので、高さ三〇米周囲五〇〇米の地に原始の状態そのまま繁茂して居る。この社叢中にはまた蝸牛ツルガマヒマヒが群棲し、アカテガニ・クロペンケイ等の蟹

類が多い。この社叢は昭和十三年六月天然紀念物に指定せられた。

カシマハツケイ 鹿島八景 江沼郡吉崎の潟中に在る鹿島を中心として八景を數へたもの。塩屋歸帆・竹浦夕照・連山暮鐘・葦崎晴嵐・瀬越夜雨・蛇島落雁・白山暮雪・鹿洲明月これであり、樫田北岸の作にかゝる鹿洲八詠がある。

カシマハンコホリ 鹿島半郡 ↓ハンコホリ半郡。
カシミ 櫻見 石川郡宮樫庄に屬する部落。郷村名義抄に、昔樫の大木があつたから村名を得たとある。

カシミノカシ 櫻見の櫛 石川郡櫻見なる八幡神社の境内に在つて、加賀の同樹種中最大なるものである。樹下に二基の石碑があり、その一に千載不朽、他の一に明治四十二年九月爲皇太子殿下行啓紀念掲之としたのは、後の大正天皇が縣下に玉駕を枉げ給うた際、この樹の寫眞を台覽に供したことを記念するものである。古來この木の葉の凋萎するときは必ず凶事ありと傳へられ、村民の畏敬する所となつてゐた。部落名もこれから起つたものである。

ガシユ 巖首 金澤卯辰曹洞宗傳燈院の僧で、書を能くした。藏卷の印に轆轤道人とある。
カシユウキンジョウユウチユウギデン 加州金城忠義傳 十四冊。高田善藏が中村萬右衛門を殺害した次第を釋史風に記したもので、挿話もある。
カシユウコマツジョウウコウ 加州小松城考 ↓コマツジョウウコウ 小松城考。

カシユウトウゾクアラタメヤク 加州盜賊改役 ↓サンシユウトウゾクアラタメヤク 三州盜賊改役。
カシユウハツケイ 加州八景 一冊。安宅歸帆・今江晴嵐・日末夕照・篠原夜雨・那谷晚鐘・御幸塚秋月・白山暮雪・淺井落雁の圖を描いたもの。この八景は能美郡小松附近のみを撰んであるから、同地の人の爲した所であらう。

カジユツガタヤクシヨ 火術方役所 加賀藩の西洋流火器銃砲類を製造保管し、且つその操縦法を研究した所で、嘉永六年の創設に係る。翌安政元年八月改めて壯猶館と名づけられた。

カシラナミ 頭並 前田綱紀の代正徳四年二月七日郡藩三兵衛直方を頭並に仰せつけられ、役科百石、寺社奉行支配となり、春嶺院附を命ぜられたのが當役を置かれた初である。享保四年春嶺院の逝去後免ぜられ、其の後前田宗辰時代即ち延享二年七月二十九日に寺西彌八郎武几が頭並を命ぜられ、江戸中屋敷御廣式御用となつた。以後中絶したが、文化十年二月二十二日丹羽余所太郎致孝、十三年十月二十二日坂田良之助康敬が命ぜられ、御奥小將の勤向は從來の如くで、御家老衆支配と仰渡され、十四年九月二十二日大平欣太夫以忠が命ぜられて、改作方御勝手用の勤向は從來の如くで、寺社奉行支配となつた。是より御近習勤で頭並となる輩は御家老衆支配、表向の役で頭並たるものは寺社奉行支配に屬し、文政元年後は種々の兼役を勤めるやうになつた。頭並の役科は常に百石であつた。

た。